

# 上海日本人学校虹橋校における特色ある教育活動及び職員研修

前上海日本人学校虹橋校教諭

鹿児島県志布志市立有明小学校教諭 向江村 真一

キーワード：中国文化体験活動、現地校交流、現地校視察研修、現地校視察交流

## 1. はじめに

派遣校である上海日本人学校虹橋校は、特色ある教育活動として、中国の歴史や文化に触れる活動及び現地校との交流が各学年に計画されており、在外教育施設の特色が生かされた教育がなされている。また、現地校視察研修や現地校職員との交流職員研修に取り組み、国際理解教育を推進している。

在外教育施設における特色ある教育活動と職員研修についてまとめ、今後の教育活動の糧にしていきたい。

## 2. 派遣校の概要

### (1) 学校沿革

西 暦	沿 革 史
1975	上海補習学校として開設（当時の児童生徒数 7名）
1987	上海日本人学校として開校（当時の児童生徒数 61名）
1996	虹橋校新校舎完成（2万㎡の敷地に冷暖房完備の南棟2階、北棟3階、200m タータントラック）
2002	虹橋校北校舎（3階）増築
2004	虹橋校東校舎（5階）新築（屋内温水プール、体育館完備）
2006	上海日本人学校浦東校を設立（浦東校には高等部も設立）※児童数2,000名を超える。
2016	上海日本人学校創立30周年
2018	バス事故（3人けが） ※派遣初年度
2020	1月新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休業（1～7月まで） ※派遣最終年度

### (2) 児童数及び学級数

令和元年1月現在

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
児童数	229	227	201	173	165	161	1,156
学級数	9	8	7	6	6	6	44 ※特別支援学級2を含む

### (3) 教職員数

教職員	語学講師	事務	図書事務	看護師	運転手	技術員	門衛	合計
64	10	7	2	3	1	6	14	107

### (4) 教育課程

学習指導要領に示された標準時数に基づいて、在外教育施設の特色を生かした現地理解及び国際理解教育を進めている。また、ネイティブ講師による中国語・英語の時間を全学年週1時間設定し、現地及び他国文化理解教育を推進している。

### (5) 通学

① 校車バス通学 … 学校と契約しているバス会社による送迎。全児童の約9割の児童が利用。

② 個人通学 … 保護者又は保護者に依頼された成人による送迎。全児童の約1割。

### 3. 学校経営方針

#### (1) 教育目標

自ら学び、明るく、やさしく、たくましく、国際性豊かな児童を育成する。

#### (2) 学校経営方針

夢や希望をもって前進する子の育成

### 4. 派遣校での特色ある教育活動

#### (1) 中国文化体験活動「チャレンジ」

学 年	内 容	学 年	内 容	学 年	内 容
1 年生	変面・影絵	2 年生	中国武術	3 年生	漢民族文化
4 年生	中国雑伎	5 年生	獅子舞	6 年生	花文字

各学年のPTA が主催して実施されている中国文化体験活動「チャレンジ」。学年の発達に応じた内容で、中国文化を体験し、理解しようとする態度の育成につながっている。

1 年 生		○ 変面技術は国の機密であり、その技術の高さは見るものを圧倒する。自在に体を動かし瞬時に変わる面に誰もが感動する。さらに、変面師は国宝であり、国民からも高い支持を集めている。文化を守り育てようとする心情を育てることができる活動である。
2 年 生		○ 日本でもおなじみの中国武術「カンフー」。宙を舞った動きや刀・槍・剣を使った素早い動きに迫力がある。また、技だけではなく礼儀を学ぶことができ、日本と中国の文化の違いと共通点に触れ、国際感覚を育てることができる体験活動である。
3 年 生		○ 漢文化の衣装、楽器、武術、舞踊、投壺を直接体験できる。職員がモデルとなって漢文化の衣装を身にまとい、当時の生活や習慣を伝える。また、端午節について学ぶ時間もあり、中国歴史文化を深く学ぶことができる活動である。
4 年 生		○ 上海雑伎団が来校し、5 種目の雑伎を鑑賞。2 種類の雑伎を実際に体験する。実際の体験を通して、雑伎の技能、柔軟性、バランス力など雑伎のすばらしい技術力を堪能できる。中国への興味関心を高め、文化理解に大きく影響する活動である。
5 年 生		○ 中国伝統の獅子舞、龍の舞、そして中国でも珍しい虎の舞について学ぶことができる。実際に、舞を奏でる太鼓をたたいたり、獅子・龍・虎を被って操ったりする活動を通して、中国伝統文化を理解することができる活動である。

6 年 生		<p>○ 中国を代表する文化「花文字」。老师（先生）が実際に絵文字を書く様子を大型スクリーンで視聴する。その後、実際に絵文字で自分の名前を描く。自分の名前を描くことで、日中の友好的な心情を育てることができる活動である。</p> <p>老师：「ラオシー」と読む。</p>
-------------	---	--

## (2) 現地校交流

学 年	交 流 校	学 年	交 流 校	学 年	交 流 校
1 年生	日新実験小学	2 年生	上海小学	3 年生	台商子女学校
4 年生	吴泾実験小学	5 年生	宋慶齡学校	6 年生	紫竹小学

### ① ねらい

- ア 現地校学生（中国では児童のことを「学生」という）との交流を通して、中国や中国の文化や習慣、人々の考え方などについて触れる機会とする。
- イ 現地校交流を通して、「自分について」、「異なるものについて」、「他者について」認めることへの理解を深め、自己の確立と国際的感覚を養う。

### ② 交流校について

交流している学校は、中国上海において、最先端の情報教育機器を配備し、中国国内で先進的な教育内容を展開している。国の支援を受け、富裕層の子どもが通う学校である。

### ③ 交流方法

- ア 年間を通じて、各学年 1 回現地校を訪問又は本校に来校して交流する。
- イ 全学年共通曲として練習している「まつり花」を日本語と中国語で合唱する。
- ウ 週 1 時間の中国語の時間で練習した中国語や中国語で作成した名刺を交換し合い、日々の学習の成果を確認する。
- エ 両国の文化や習慣などについて発表し合い、相互理解を深める。

### ④ 成果と課題

#### ア 成果

- 中国語の堪能な児童が通訳者となり交流活動を円滑に進めることにより、語学の習得はもちろん、自己を確立し、積極的に日中友好に関わろうとする心情を育てることができている。
- 交流までの学習や交流の実際、事後のまとめを学習発表会で保護者に伝える活動を通して、中国及び自国に対する理解を深めることができている。

#### イ 課題

- 教育制度の違いから日程調整が難しい。中国は、9月から新年度。
- 中国の英語教育がかなり進んでおり、英語での交流が難しい。
- 教師自身の語学スキルを高める。

## (3) 現地校との職員相互研修

### ① 現地校視察研修

#### ア 視察の目的

現地理解教育研修の一環として、現地校の教育の目的や内容などを直接見聞する機会を通して見識を広め、グローバル感覚を養い、今後の日本の教育活動や現地校との交流活動に生かす。

イ 在任期間中の視察校

<2017 年度> 吳涇実験小学      <2018 年度> 虹口外国語第一小学  
<2019 年度> 日新実験小学

ウ 視察の実際

○ 英語教育

毎日授業が組まれており、「話す」ことを重視した授業が展開されている。学生は、高いスピーキング力を身に付けており、調べたことや自分の考えを英語で説明することができる。

○ 音楽

視察した授業は、学生 1 人に 1 台ピアノが用意された音楽室で、伴奏のスキルを高める授業。大画面に映し出さる教師の演奏する運指を見ながら伴奏を練習する。練習の発表は、モニターが設置されたピアノで演奏し、その様子が大画面に映し出される。

○ ICT 機器を効果的に活用した授業が実践されている。

○ 算数

立体の組み合わせを考える授業。電子黒板、書画カメラ、大型スクリーンを活用。学生の教科書・ノートの準備はなく、画面を見ながら説明を聞く。配付された立体をペアで考え、発表する。日本と違い、多様な考え方を発表し合い、協議する場面はなかった。



② 現地校視察交流

ア 交流の目的

- 教職員相互の授業参観を通して、相互の教育内容やシステム等を学び合い、日頃の教育実践をよりよいものにしていく。
- 職員間の相互交流を通して、両国の教職員相互の関係を深め、今後の交流校との関係を更に密にし、相互に発展させることに寄与する。

イ 交流の実際

- 現地校交流で交流している学校の教職員が本校に来校し、授業参加して日本の授業を参観する。
- 全体交流会で、日本の教育を紹介し、授業後の感想や質疑応答を通して、日中両国の教育について深く知る。
- 教職員相互の意見交流を通して、教職員相互の関係を築き、今後の教育活動に生かしていく。



ウ 成果と課題

<成果>

- 現地校視察を通して、中国教育の現状を知ることができ日本の教育の在り方について深く考えるきっかけとなった。
- 中国の教育の現状を知ることによって、日本教育が抱える課題やこれからの方向性について改めて見つめ直すことができた。
- 今後の日本の教育について、グローバルな視点で見つめ、よりよい授業づくりについて考えることができた。

#### <課題>

- 中国の教育は、常にスピード感をもって進められている。しかし、貧富の格差の影響で、本来になうべき教育によって育成される資質や能力にまで格差が出ている現状がある。この学びを日本の教育でどのように進めていくべきなのかを考える必要がある。
- 近年、中国は教育に多くの予算を投資し、近代的な教育環境が整ってきている。最先端の機器を導入した授業や英語教育を充実させ、国際社会で活躍する人材育成が進められている。この現状と日本の教育とを比較し、学ぶべきことを積極的に導入し、国際競争社会の中で活躍する児童の育成を目指していきたい。

#### 5. おわりに

派遣された在任期間中に、様々な研修の機会を得ることができた。研修を重ねる度に国際的な視野で教育について考えることができた。また、派遣国である中国の教育の現状を知り、近年中国が教育に力を注いでいることを肌で感じることもできた。

さらに、現地の人々との関わりを通して、中国ばかりではなく人々のすばらしさを実感することができた。全国から派遣されて赴任している職員や現地スタッフ、日本駐在員、現地校教職員など様々な人々と出会い、その度に刺激を受け自己を見つめることができた。また、国際的感覚を磨くことができた。

派遣期間で得ることができたすばらしい出会いと感性を、今後の教育に余すことなく還元し、国際性豊かな児童の育成に努めていきたい。